

## 10月にイタリアンを播種できなかった場合の 11月以降の牧草播種における注意事項

令和元（2019）年11月5日  
畜産振興課・経営技術課

イタリアンライグラスの播種時期は9月中旬～10月中旬です。10月にイタリアンライグラスを播種できなかった場合は、ライムギを利用すると、耐寒性が強いので、11月上旬まで播種できます。11月中旬以降は3月下旬まで播種に適する牧草はありませんので注意してください。

牧草の種類	ライムギ	イタリアンライグラス（春播き）
播種期	10月中旬～11月上旬	3月下旬

### 1 ライムギ（期待生草収量：3,000～4,000kg/10a）

#### ☆ポイント

播種は11月上旬まで。播種後はロータリー耕等で覆土してから鎮圧。出穂以降、茎葉の硬化が早いので、出穂始めに収穫。収穫適期短いので要注意。

#### (1) 品種選定

（早生）春一番（雪印）、キングライ麦（タキイ）など

#### (2) 施肥量

ア 堆肥：3t/10a

イ 苦土炭カル：100kg/10a（目標 pH：6.0～6.5）

ウ 化成肥料：おがくず牛ふん堆肥3t施用の場合の化成肥料施肥基準量（kg/10a）

区分	窒素 (N)	リン酸 (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	加里 (K <sub>2</sub> O)
基肥	11	0	0.4

おがくず牛ふん堆肥3t施用の場合、N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O = 2:12:24(kg/10a)の肥料成分が供給されているとして計算。

#### (3) 播種

ア 播種時期 10月中旬～11月上旬。遅くとも11/10までに完了しましょう。

イ 播種量 5～8 kg/10a（散播）

ウ 播種後、ロータリーやディスクハロー（深さ3cm程度）をかけて覆土後に鎮圧を行うと、発芽後の乾燥対策となり、発芽率の低下を防ぐことができます。

#### (4) 収穫

ア 収穫時 4月下旬（イタリアンの前に収穫可能）

イ 注意事項 出穂以降の茎葉の硬化が非常に早く、消化率や嗜好性が低下するので、出穂始めに収穫してください。

10月までにイタリアンを播種できなかったが  
どうしてもイタリアンを作付けしたい → 春播きで利用

## 2 春播きイタリアンライグラス

### ☆ポイント

播種量を多くします。春先の雑草に負けないよう  
初期生育の早い早生品種を選びましょう。

#### (1) 品種選定

(早生) タチマサリ(雪印)、いなずま(カネコ)など

#### (2) 施肥量(秋播きと同じ)

ア 堆肥: 3t/10a

イ 苦土炭カル : 100kg/10a (目標 pH: 5.5~6.0)

ウ 化成肥料 : おがくず牛ふん堆肥3t施用の場合の化成肥料施肥基準量 (kg/10a)

区分	窒素 (N)	リン酸 (P <sub>2</sub> O <sub>5</sub> )	加里 (K <sub>2</sub> O)
基 肥	11	0	0.4
追 肥	2	—	—

おがくず牛ふん堆肥3t施用の場合、N:P<sub>2</sub>O<sub>5</sub>:K<sub>2</sub>O = 2:12:24(kg/10a)の肥料成分が供給されているとして計算。

#### (3) 播種

ア 播種時期 3月下旬~4月上旬

イ 播種量 3~4kg/10a (通常の20~30%増)

ウ 播種後、軽くロータリーやディスクハロー(深さ3cm程度)をかけて覆土後に鎮圧を行うと、発芽後の乾燥対策となり、発芽率の低下を防ぐことができます。

#### (4) 収穫

ア 収穫時期 6月上旬~中旬

イ 収 量 春播きは草丈伸びず、茎が細く、収量は少なめです。2番草を利用する場合、1番草刈り取り後、速やかに尿素等を追肥して窒素成分を補給しましょう(10aあたり窒素2kg)。